

恐ろしい艦載機の機銃掃射、 キーンと云う音が今でも耳に

東海村平和委員会 加藤 岑生

3月7日(土)14時から舟石川コミセン和室で第13回9条の会東海準備会の例会として20人の参加で戦時体験者との懇談会を行いました。

これまでの約2カ月毎に13回の「昭和と戦争」DVD鑑賞や憲法学習会の例会を行ってきました。前回から、東海村に在住する戦時体験者から体験話を聞き戦時体験を記録することを、今の機会を逃したらむしろ遅いのではないかという気持ちを持ちながら、懇談会形式で聞き取りを始めました。そしてこのようなことが反戦平和を語り繋ぐ意義深いものとなることを願っています。



今回は86歳の女性の坏さんの戦時中の体験を聞くことにしました。

「爆撃から投下される真っ暗な夜空の照明弾が街並みを真昼のように照らし、まるで花火のように、それ以来花火が嫌いになった。今でもそれ以来毎年開かれる花火大会に孫に誘われるが参加したことがない。

日立の町は真っ赤な火の海。炎を避けながら山へと逃げた。ふと後ろを見ると炎に赤く映える空の雲の中に恐怖に慄く自分の影がそこにいた。

艦載機の機銃照射で口から脳天に弾丸が貫通して死んだ友人がいた。キーンと云う音が今でも耳に残っている。傘に身を隠して難を逃れた。

こんな恐ろしいことは繰り返してはいけない。戦争はいけない。」とつとつと語る坏さん。話を聞いた後の質疑応答は、途切れることなく次々と質問が出て時間のたつのも忘れませんでした。あっという間の2時間でした。

2年目の3.1ビキニ

県事務局スタッフ 荻谷 哲生

レンタカーを駆ること5時間、今年も民青の仲間たちと共に、3.1ビキニデー集会に参加してきました。去年に続けて2回目ということもあり、今年は割合リラックスして集会に臨むことができました。

思えば去年の墓参行進のとき、焼津駅前に集合した色とりどりののぼり旗を前にして、茨城では県原水協の決して大きいとは言えないのぼり旗が一つあるだけという寂しい状況。来年は必ずや自前の旗をと決意して早一年、今年は高々と掲げることができました。勢い余って、人数に比しても本数を立て過ぎてしまったくらいかもしれません。それでもやはり、ただ歩いて行くだけなのとは大違いで、気分良く整然と行進できたように思います。

今年の分科会は、国民平和進行をテーマとした会に参加しました。全国の参加者からは、「行進ルートに事前にチラシをまいてお知らせしています」「平和行進はデモ行進じゃないのだからシュプレヒコールは要らないのでは?」といった報告がされ、取組み方は地域や個人で様々。平和行進とは、「核兵器廃絶、被爆者連帯」というテーマで「国民に平和の大切さを訴えながら歩く」という事なんだ、取組み方はいろいろでいいんだ、と知りました。

初日の夜の「世界青年のつどい」では、原子力の専門家である安斎育郎さんの「かつてアメリカでは、失恋した兵士の自殺の為に原発事故が起こった。事故は不測のもの、絶対安全はありえない。」という話が印象的でした。

今年は参加者も多く、集いなどもよく準備されていて、全体として、分りやすく参加しやすい雰囲気だったように思います。



史上初!9条違反の確定判決!

名古屋高裁イラク派兵

差止訴訟学習会

と き 4月4日(土) 14時~16時 参加費無料
ところ 生協会館3階(水戸市、城南病院付属クリニックとなり)
講 師 内藤 功さん(日本平和委員会代表理事)
主 催 茨城保健生協九条の会
029-221-3406(組織部 木村)

北茨城九条の会 1周年記念の集い

と き 4月26日(日)午後1時から
ところ 北茨城市 磯原・防災センター
講 師 : 川口 創さん
(自衛隊イラク派兵差止請求訴訟 弁護団事務局長)
テーマ 『自衛隊のイラク派遣は憲法9条違反です』
[判決内容の解説]○どんな効果が?・生かすための意思と知恵...など そして...
○これでいいの? 田母神発言
○知っていますか? いまの自衛隊 資料代:500円
主 催 北茨城・九条の会 0293-46-5611(藤田)

信州そば 有り難うございました

旧玉里村の会員飛田元雄さんから信州本場の霧しなそば1箱、事務局にいただきました。飛田さんの故郷は信州戸倉です。田舎から送られて来たものだと思います。直ちに茹でて、出し汁をつくり口に運ぶ。さすが本場もの美味しい。一同満足。有り難うございました。

平和かわら版

No.527
月3回 発行
2009.3.15

平和新聞茨城版

発行: 茨城県平和委員会
〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806
E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



写真証言 沖縄戦「集団自決」を生きる

・・・渡嘉敷、座間味島の証言・・・

森住 卓 126ページ 1470円 (株) 高文研

「いや、暫くだなあ、10何年ぶりだ」「ご無沙汰しております」今年の百里初午まつりでの邂逅だ。70年後半～80年にかけて百里によく写真を取りにきていた、若者だった。その彼が今は立派な仕事をしている。小生より10歳若い働き盛りのフォトジャーナリスト。その名も森住 卓。

99年には旧ソ連チェルノブイリ事故の核被爆者を取材した「セミパラチンスク」で日本ジャーナリスト会議特別賞。

また、我々がよく使わせてもらっている「イラク 湾岸戦争の子供たち」のパネルなどで活躍。その彼が今度、表記の写真証言を出版。「伊達さん、広めてください」という。

内容は全ページ生き残った方々、26人の生きた証言で真に迫るものである。

沖縄南部から西方に浮かぶ島々。慶良間諸島。紺碧の海はどこまでも深く、島の緑は自然そのもの。今から63年前の3月26日、米軍が沖縄本島読谷の浜に上陸する5日前に「集団自決」の悲劇がはじまった。全編、悲しい涙、怒りの涙、平和への確固たる涙なくして読めない証言である。

本来「自決」とは自ら命を絶つことをいう。他者に強制されて成すものではない。しかし起こってはいけない事が現実起こったという事。ここに戦争の悲劇を我々は直視しなくてはならない。

時事刻々起こることに迫るのはジャーナリストの使命でもある。幸い今回、森住氏が上梓された写真証言は時宜に適ったものである。大いに広めて平和学習等に活用していただきたいと思う。

改めて「平和のために武器はいらない。戦争はしない」という憲法9条の理想を現実のものに少しでも近づけるために。そして、歴史の歯車を逆回転させてはならない。

理想を追い求める人間の営みに人類のあらゆる問題、平和・人権・自由・平等の発展進歩があるという事に確信をもち、活用したい方は事務局までご連絡ください。お送り致します。

沖縄を訪ねて 知ること、学ぶことの重要性を実感

憲法9条の会つくば 長田 満江

太平洋戦争の戦跡を巡るため、1月26日から29日まで、沖縄を訪問しました。参加したのはつくば市で市民活動をしている女性4人。26日は那覇市内にある那覇中央協会で集団自決の生き残り、金城重明氏とお会いし、「集団自決」、それは軍が手榴弾を非戦闘員である住民に配った事実、そして軍国主義的皇民化教育の存在、それらが相俟って住民を強制的に「集団死」に追いやったものであり、「殺意なき虐殺」とであると語っておられました。金城氏は自らの体験を踏まえ、平和教育に命をかけていると述べています。

27日は沖縄戦の縮図と言われた伊江島に渡りました。沖縄黒糖生産地として名高い伊江島では黒糖加工場を見せてもらった後、「ヌチドウタカラ」（命こそ宝）の家と名づけた「反戦平和資料館」を訪問しました。伊江島の米軍基地撤去を闘った阿波根昌鴻（あわごん・しょうこう）氏が自宅敷地内に建設したもので、「人間の生命を粗末にした戦争の遺品と、平和のために闘った人々の足跡」を展示している所です。資料館を守る謝花悦子さんは、もの静かな語り口ながら、「戦争は不幸の根源。軍備がある限り、本当の戦後の日はない」ときっぱり。基地に住む沖縄の人々の、日頃の決意を知らされました。

28、29日は中部及び南部戦跡を訪問しました。中部では知花昌一さんの案内でチビチリガマ（尻切れ洞）とシムクガマを訪問。前者では141人の避難民のうち84人が「集団死」し、後者では1000人近い避難民が米軍に投降して命をつなぎ、生と死を分けたというところです。南部では、ひめゆりの塔、摩文仁ヶ丘と平和記念資料館、南風原陸軍病院20号壕を訪問しました。日本本土への米軍上陸を遅らせるために、軍指導部はいたずらに沖縄での戦闘を長引かせ、20万人もの犠牲者を出したという事実を、不勉強な私は知りませんでした。知ること、そして歴史を学ぶことがいかに大事か、実感させられた沖縄の旅です。

た。アレン・ネルソンさんが「日本人は一度は沖縄を訪ねるべきだ」と言った意味が、すつんと胸に落ちました。

資料館で、展示のむすびのことばが胸に刺さりました。

沖縄戦の実相に触れるたびに
戦争というものは
これほど残忍で これほど汚辱にまみれたものはない
と思うのです

この なまなましい体験の前では
いかなる人でも
戦争を肯定し美化することは できないはずです

戦争をおこすのは たしかに 人間です
しかし それ以上に
戦争を許さない努力のできるのも
私たち 人間 ではないでしょうか

戦争このかた 私たちは
あらゆる戦争を憎み
平和な島を建設せねば と思いつづけてきました

これが
あまりにも大きすぎた代償を払って得た
ゆるすることのできない
私たちの信条なのです

